



山重っ子

11月



校訓「やさしく かしこく たくましく」

読書は、心の栄養！

校長 有村 修一

スポーツの秋、読書の秋、〇〇の秋・・・と言っているうちに、2学期も12月を残すのみとなりました。終業式までの間、学校でも家庭でも子供たちにしっかり目を向け、学習面・生活面のまとめを行い、充実した学期としたいと思っています。

人間には、体の栄養、心の栄養、頭の栄養の三つの栄養が必要だと言われます。今の子供たちには、体と頭の栄養だけでなく、特に心の栄養が大切では、と思うことがあります。

子供の心の栄養となるものとして読書があります。読書は子供の心に深い感動を与え、思いやりの心や想像力などの豊かな心を育みます。11月は、「校内読書祭り」として、本にふれる機会を多く設けました。

児童文学学者の椋鳩十さんは、子供がよい本を読むことの大切さを次のように述べています。「感動は心の爆発であり、人生にとっての大切な源だ。優れた本は、滑らかな清水のように、子供たちの心にしみ込み、そういう地下水（感動）を子供の心につくる可能性をもっている。」と。また、子供の時の読書が大切であることについて、次のようにも述べています。

「子供は、本という新しい世界へ旅立つ旅人である。旅立ちがうまくいけば、あとはもう自分の足で、本の世界をどんどん先へ進む。」と。

小学生の時期に読書体験を多くし、本を読むことの本当のすばらしさと喜びを体得させること、特に、小学生の1、2年生のうちに本に触れる機会を多くし、読書の楽しさをつかませることが大切だと思います。

動画等を気軽に見ることができる現在の状況であっても、改めて1冊の本を手にし、自ら読んで内容を理解することが、学習を進める上でも、大切であることを感じています。今一度、読書を見直し、わずかな時間でも構いませんので、「親子で読書」の時間を1冊の本を間に置いて、過ごされてみてはいかがでしょうか。読んで楽しいと思う経験を、今この時期に積み重ねてほしいと思っています。皆様の御理解・御協力を、よろしくお願ひします。



これから寒くなる時期を迎えます。インフルエンザ等の流行も気になる状況です。残りの2学期、健康に過ごせるように体調管理等、よろしくお願ひします。

火災を想定した避難訓練

11月20日（木）に火災を想定した避難訓練を実施しました。寒くなると、火災が多くなることを予想し、毎年、この時期に行ってています。いつ、どこで発生するか分からず、学校だけでの訓練では、実際に発生した時に対応できるかとの懸念もあり、今回は、校区コミュニティ協議会の方にもお越しいただき、子供たちの避難の様子を見ていただき、また、消防署員の方の説明も聞いていただきました。これから寒くなりますが、火災が起きることがないよう、冬の時期を安全に過ごしていきたいと思います。

